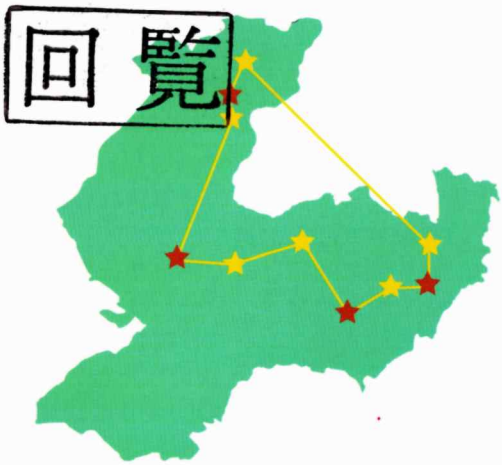
由布市地域づくり団体交流・連携事業

～由布市の未来に輝く星を見つけよう～



由布市地域づくり団体交流連携事業は、地域づくりのけん引役となる地域のリーダーの養成や地域住民・行政・NPO等の支援者の人材育成が事業目的です。それらの地域づくりに関わるすべての人が由布市で輝く「星」です。地域づくりリーダーや市民、市職員等が協力していきながら、由布市に輝く「星」を輝かせて、それらをつなぎながら「５年・１０年後に活きる地域づくりの方向性」すなわち「ゆふの星座」を創っていくことを目指していきます。

今年度は新型コロナウィルス感染症の拡大に伴う甚大な影響は大きく、事業運営が大変難しい１年でした。今後、人々の生活様式は大きく変化（ニューノーマル）するという見方が強く、「働き方」や「暮らし方」の意識や価値観も変化・多様化し、ニーズも変容すると考えられています。今後、由布市における地域づくりにおいても、そうした変化に対応していくことが求められます。

ゆふだん

ゆふだんとは・・・

一、とことん談議（だん）して

二、地域づくりの壇（だん）上に上がり

三、由布市として団結（だん）しよう

「とことん談議（だん）」

自分たちの地域がどんな課題を抱えているかを話し合い、お互いの共通項や地域特性を確認していく「地域経営・円卓会議」を計４回開催しました。

「若者」「移住者」が地域づくりにどのように参画していくのか？令和２年７月に発生した豪雨災害、想定外の災害に対してどう協力していくのか？今後の地域づくりに不可欠な重要テーマについて検討しました。

「地域づくりの壇（だん）上」

新型コロナウィルス感染拡大の影響を受けて今年度はオンラインでの研修や市内を巡る視察研修を実施しました。８月には、昨年度に県外視察を行った鹿児島県柳谷地区（やねだん）による「オンラインやねだん故郷創世塾」。１２月には由布市内の地域づくりの現場を訪れる「市内研修」。２月には新潟県にある中間支援組織・NPO法人都岐沙羅パートナーズセンターの斎藤主税氏を招いた「地域づくりオンライン研修会」を実施しました。

「団結（だん）」

まとめとして、関係者や地域づくりの実践者が集まり「ゆふ地域づくりオンライン自慢大会」を開催しました。これまでの成果となる発表をビデオ画像に収録。これまで学び合い、深め合った「地域づくり自慢宣言」を行いました。発表の内容をホームページに公表し、コロナ禍で傍聴することができなかった市民の方々にも成果を届けました。

ココにアクセスすると動画が見られます！！

地域経営・円卓会議　**市内視察研修**　**ゆふ地域づくり自慢大会**

拡大版地域経営・円卓会議　**オンラインでの研修**

http://www.city.yufu.oita.jp/newly/chiikidukurionline/

むろおの会　会長　後藤　泉次

私たちが住む室小野（むろおの）地区は、由布市庄内町の山間地に位置する人口約５０人、世帯数１６戸の小さな地区です。地区からは由布・鶴見岳が望めます。その室小野地区にある「むろおの会」は農家５組、夫婦１０人の組織です。２０１８年５月に「むろおのdoor」をオープンし、その交流拠点施設を起点としながら、農泊の受け入れや特産品製造を通じて、地区の活性化に取り組んでいます。

「むろおの会」設立のきっかけは「もったいない精神」です。出荷できない規格外のいちごを使い、仲間と楽しいことを始めようと考えたのがはじまりでした。利益を追求した増産は考えていません。メンバーで作業後にお茶を飲んだり何気ない話しをしたり、旅行に行ったりすることが何よりの楽しみとなっています。そうした「利益より仲間の和」を重んじる精神が活動の源です。

実際の作業としては、規格外のイチゴを使用し、メンバー全員で週に１回、２時間ほど作業。合成甘味料や保存料は使用せず、イチゴと醸造酢、砂糖だけで作っています。イチゴの香りたっぷりのビネガーは酢独特の尖りは消え、どこまでもまろやかで甘酸っぱく。炭酸水やヨーグルトなどに合わせても良く、ドレッシングや酢の物にも応用できます。爽やかな酸味と豊かな風味はアイデア次第で多彩な味わいが楽しめます。

商品は地域内外のイベントなどに積極的に出店販売を行っています。販売も会員が行い、買い物客との交流も楽しみのひとつとなっています。年間３千本程度を製造。家事の負担にならないペースで作業し、作業後にはみんなで交流を深めています。利益を追求した増産は行わず、自分たちのペースで無理なく続けられるよう作業を行っています。

「このボトルには地域の未来が詰まっている」。室小野地区に限らず、山間地は過疎や高齢化など深刻な問題を抱えています。人口を増やすことは難しいが、人と人との結びつきを強め、絆を深めることはできます。地区に活気と活動に広がりを！限られたメンバーだけが盛り上がっても意味がない。今後もイベントや作業などを通じて多くの人と交流し、他の地域づくりに取組む団体などと連携していきたいと思います。そして移住促進など当地域に限らず、地域の活性化につなげていきたいと思います。

由布市はひとつ

「地域の星」がつながり、
由布市に新しい「星座」が誕生しました。

令和２年７月の豪雨災害は本当にとんでもない災害でした。想定外の雨量、線状降水帯。停電、電話の不通、通電火災の恐怖などがありました。

そして、避難を余儀なくされる状況。あらためて避難の方法、逃げ方が難しいと感じました。夜間に逃げられるのか？いつのタイミングで避難をするのか？そして湯平では逃げる場所がない現実を突きつけられました。現実問題として、時間との勝負もありました。「絶対に安心なところなどない」と感じました。

そうした状況の中で消防団の活躍がありました。行方不明者の捜索活動が続きました。「絶対に見つける」という団結と使命感がありました。そして、消防団を中心にみんなが協力し合いました。消防団と旅館組合が連携して地域住民の安否や避難状況を一軒一軒電話で確認しました。やがて、避難しない理由も聞きながら、それぞれ事情があることが分かりました。家を離れられない理由もあります。最後は「命」をどうするか？その「命」をどこまで守れるのか？ということを突きつけられました。

お年寄りも多いですが集落単位で情報が共有されていると思います。みんなが集まる公民館が一番安全だということも分かりました。これからの教訓として日頃からの情報共有・ネットワークが大切だと思いました。今後はネットワークの充実を図りながら、地域密着型の防災訓練を行うなど、想定外の事態に備えていければと思います。

「令和２年の豪雨災害を振り返って」（下湯平地域での拡大版地域経営円卓会議より）

湯布院町岳本自治区　ゆふいん豊水会（豊かな水環境創出ゆふいん会議）　富山　雄太

私は由布市湯布院町岳本自治区に住んでいます。そして地域づくりのフィールドは広く由布市へと広がっています。熊本大分地震の後に移住。由布市で水環境のコーディネーターとなり、豊かな自然環境を守る取り組みをしたいと思い、由布市にやって来ました。「一人ひとりが環境保全を意識するような地域づくりが大事」。この信念を強く持ちながら環境保全の地域づくりに取り組んでいます。

大分県の環境教育アドバイザーに認定され、由布院小学校に地元で生息する魚を届けて、水槽展示をしています。由布院小学校の環境委員会の子どもたちと一緒にその水槽の魚のお世話をするようになりました。

そして由布院盆地の田園地帯を流れる宮川。その宮川で大繁殖する外来の水草・オオセキショウモの駆除活動を行っています。外来の水草の大繁殖により、宮川や周辺の農業用水路が上昇、様々な問題が発生して農家の方々が困っていました。そこで地域住民と観光関係者、農家の方々が協力して駆除活動をはじめました。延べ７００人の参加により、588m区間で駆除ができました。結果的に水位を30ｃｍ低下させることができました。「協働の力」を実感しました。

その後、水環境の保全活動は由布市全体に広がりました。庄内地域では庄内水の輪会議が立ち上がりました。「庄内ふるさと見分け」として、庄内の地域資源を再発見、新発見していくツアーを実施しました。挾間地域では「挾間親子釣り教室」を開きました。５０名の親子が参加して、子どもたちに由布市の良さを伝えることができました。

「人の気持ち（ハート）をつなぐ」ことが大切だと感じます。環境保全に対する皆さんの意識が高いので、それをつなげて、みんなで協力して一致団結し、由布市の環境保全をやっていきたいです。由布市は大分川の流域としてつながっています。上流、中流、下流が流域・地域としてつながり、環境の意識を高めて一緒に活動ができるようになれば良いと感じます。そして「ゆふ地域づくり」として「由布院の原風景」を取り戻していきたいです。由布院は盆地で、本来は沼地でドジョウも多かったです。ドジョウもあたり前に住んでいるような豊かな生態系の上に、豊かな生活が成り立っています。そうした原風景を取り戻し、創っていくために今後も由布市で活躍できればと思っています。

高校生の頃、挾間町の楠木児童クラブでお手伝いに参加していました。そこで、児童クラブを運営されている園田さんと出会いました。児童への対応について教わり、時には怒られることもありました。私に真剣に向き合っていただき、地域についての話を教わって、少しずつ地域のことに興味を持つようになりました。

私は挾間町谷地域に住んでいます。谷地域の良さとして地域住民の優しさがあり、自然の豊かさ、農ある風景や生業、伝統行事があります。その反面、交通が不便で住める土地が少なく、人口が減少している悩みを抱えています。感じている問題意識は「思考の過疎化」です。住民が減少し、小学校が閉校予備地域となっていくこと。内や外からの刺激が少なくなり、閉鎖的になっていくこと。やがて、今の時代の考え方より「昔からの常識」にとらわれすぎてしまう。そうした思考、考えを少しでも変えたいと思っています。

谷地域のこうできたらイイな

①谷地域の存続　小学校の存続
②お店がほしい
③谷ハザードマップ
④地域のコミュニケーションツール
⑤地域の子どもたちに地域の関心を集めること

幼馴染などに声をかけて「谷地域のこうできたらイイな！」ランキングを募集しました。その結果、みんなも同じようなことを考えていることに気づきました。これから若い世代がつながり、イベントや行事ができたら良いなと感じます。新しく伝統をつくっていく、力強いトライができたら良いです。

ネーミングセンスが良くないですが「大人たちへの下克上。これが若者のやり方だ！」というコンセプトを掲げたいです。「若者が一心不乱になって取り組んでいく」「若者がゼロから伝統をつくっていく」その様な事がやりたいと思います。何事も必ず１回目がある。それが100年続くと伝統になる。若者が失敗したとしても必ず改善策があるはずです。その過程の中で、必ず大人とも交流が生まれます。確かにジェネレーションギャップはありますが、それを利用していくことが大切だと感じています。

私はラジオのパーソナリティーをしており、ラジオで地域のことを情報発信したいと感じる時があります。今の時代はその情報発信がSNS、Youtubeなどで拡散されていきます。さらに、子どもたちの情報発信を親がどんどん拡散していきます。そのような傾向も活用しながら地域の情報発信ができたら良いと思います。

地域を通して様々なことを考えますが、皆さんにも協力を得ながら、谷地域の活性化のために少しでも進められたらと思います。一人でも多くの若い世代を集めていきたい。皆さんの知り合いにも若い世代がいたら声掛けをお願いしたいと思います。私も幼馴染を集めて、地域づくりを始めていきたいと思います。

挾間町山田自治区　江藤　功明

市内研修レポート　～昨年度事業参加者の地域づくりの現場訪問から～

地域はみんなで知恵を出し、みんなの協力で守るもの！！

★御手洗祐次さん（庄内・平石自治区）★

御手洗さんから平石地区における少子高齢化の現状や今後の農業継続への不安、米のブランド化についての話をお聞きしました。棚田の風景も見せていただき、「こんなに美しい場所があるとは知らなかった！という声があがりました。「もっとうまく情報発信し、地域の魅力を発掘していくことが大事ではないか」という提案も出ました。

『本気度』が何より大事。

★小山和義さん（湯布院町・東石松自治区）★

小山さんは米づくりが大好きで、30年間、常に新しいことにチャレンジしています。昨年度の研修がきっかけで、土着菌堆肥を作り始めました。湯平に菌を探しに行き、米糠、糖、水、赤土などを混ぜて土づくりを行い、工夫を重ねて米づくりに活用しました。「自分が歳をとっても楽しく生きるために地域づくりを頑張っている」という想いを聞きました。

心のキャッチボール。感動が人を動かす。

★竹内正敏さん（湯布院町・塚原自治区）★

竹内さんから牧場の話や子どもたちへの体験、こもれびカフェの開催などについての話を聞きました。昨年度の研修を経て構想を練っている若者の集いの場「塚原創成塾」や道の駅の計画など、地域づくりへの想いや夢を語っていただきました。「自主財源を作り、地域自治力を高めていき、次世代へ引き継ぎたい」という話が印象に残りました。

EDUCE。導く。才能を引き出す。

★三原啓資さん（庄内町・柚の木自治区・大津留まちづくり協議会）★

三原さんからおおつる交流センター（旧大津留小学校）・大津留まちづくり協議会の活動を紹介していただきました。三原さんは、おおつる交流センターの部屋を借りて、竹細工の仕事や伝統工芸継承部の活動に取り組んでいます。関係人口を増やすこと、高齢者の相談窓口をつくることなど、これからに向けて考えている話もしてくださいました。

思いを一つにして取り組むこと。

★佐藤重信さん（挾間町・鬼瀬自治区・NPO由布いきいきネット）★

佐藤さんから行政に頼らず、自主財源やみんなの気持ちで集めて立ち上げた「由布いきいき市」を紹介していただきました。お年寄りに「余ったものでいいので、家庭野菜をください！」と呼びかけ、お年寄りに外出するきっかけができ、売り買いの交流が生まれたそうです。他にも土砂崩れ防止の竹林整備や子育て住宅の取り組みについての話がありました。

地域づくり「感謝」「感動」「運命共同体」。

★中村純一さん（挾間町・北方自治区・はさま興友会）★

中村さんからは多くの団体に所属しながら実践したことや、はさま興友会で取り組んでいる「はさまっぷ事業」についての話を聞きました。昨年度の研修で聞いた『地域づくりは「感動」&「感謝」のキャッチボール』という言葉。「子どもの笑顔が何よりの力。大変な面もあるが同じ志を持った人と一緒に活動できるので楽しい」という話もありました。

【問い合わせ先】

由布市　総合政策課
〒879-5498 大分県由布市庄内町柿原302
電話：097-582-1158

公益財団法人人材育成ゆふいん財団
〒879-5102 大分県由布市湯布院町川上1647
電話：0977-85-4748

【2021年3月発行】